

狸 1 狸の怪 = = = 猪・鹿・狸より

狸という奴は、たしかに変な奴だと、始終狸を捕っている男が話したことがあった。まだ五年と経たぬ新しい話である。村の池代（いけしろ）の山で穴を見つけて、仲間と二人で掘ったそうである。いよいよ奥まで掘ってしまって、枯葉を敷きつめた寝床まで掘り詰めたが、狸の姿はさっぱり見えぬ。こんなはずはない、たしかにいますぐだが、何処か抜け穴でもあるのじゃないかと、掌で撫でるようにして探したが、



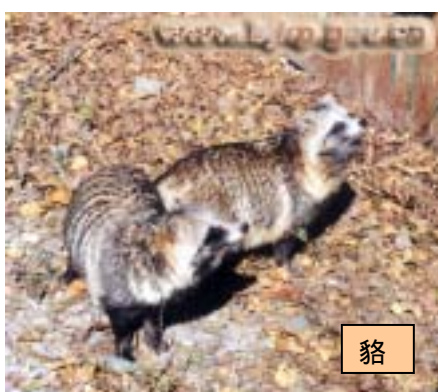
抜け穴もなければ狸もおらぬ。それにもう一面の岩が出てしまって、これ以上掘って行く先もない。しかも深い横穴で、中が暗くて仕方がない、蠟燭でも点して見たらと、わざわざ一人が里へ出て取って来て、中を隈なく探したが、どうしてもおらなんだ。穴の口の様子では、二疋や三疋は間違いないはずだが、それでは今日は穴の口に囲いをして置いて、明日も一度来て見ようと囲いの支度にかかったところへ、丁度見物に来た男があった。そこでそれまでの経過を話してみたところ、その男の言うには、昔から狸は燻せば出ると言うから、試しに燻し立ててみたらどんなものかと言う。何だか当てにならぬようにも思ったが、他に好い方法もないのでそれに決めた。枯葉を掻き集めて、上に杉の青葉を載せて、煙をどんどん穴の奥に煽り込んでやった。一方、抜け穴でもあって、煙の出る道でもあるかと、一人が見張っていた。するとものの二分間も経たぬのに、ひょっこり煙の中から狸が飛び出して来たそうである。すぐ用意の刺股で押さえつけて掴まえてしまったが、ただ不思議でならぬのは、それまで狸が果して何処に隠れていたか、いくら考えても判らぬと言うのである。



同じ男の話であるが、その前、別の山で狸を掘った時のことだそうである。およそ六分通りも掘ったと思う時分、もう一疋飛び出して来た。すぐ持っている鍬で撲りつけると、ころりと死んだそうである。そこで肢を縛って、傍の木に吊るしておいた。まだ二疋や三疋はたしかにいますぐ、さらに穴を掘りに掛かったそうである。その時穴を掘りながら傍に吊るしてある狸を見ると、何だか縄が切れそうで、あぶなかしくて仕方がない。そこで相手の男を顧みて縄を代えてくれと言うと、よしと答えてすぐ狸を下ろして縄を解いたそうである。その時、代わりに縄を取ってくれと言うので、一人が鍬の

手を休めて、脇においてあった縄束を投げてやった。それを相手が手を伸べて受け止める、その瞬間だったそうである。縄を受け取るため、ひょいと手を伸ばした際に、死んでいたはずの狸が、むっくり起き上がるや否や、手の下を掻い潜って飛び出した。それと慌てて追い掛けたが、もう間に合わなんだと言う。狸はもう何処ともなく逃げてしまった。何にしてもほんのちょっとした隙で諦められなんだと言う。ずいぶんひどく撲ってたしかに死んだかと思っただが、やはり嘘死にだった。それにしても吊るしてある縄が気になったのが、そもそも怪しかったと不思議がっていた。

死真似か気絶か、狸にはよくあることだそうである。



貉



狸



ハクビシ



アナグマ (上) とタヌキ (下)
小学館学習百科図鑑「日本の動物」より

ハクビシは朝出勤の時に、車に轢かれているのを時々見かけますが、狸を見かけたことはないですねえ。一年ほど前、ひどく痩せた狸を見たと言う話を聞いたことはありますが・・・。子供の頃は狸の襟巻きがそれ程珍しくはなかったのですが・・・。貉(まみ)にいたってはもう絶滅してしまったのではないのでしょうか。この写真を戴いたHPも中国でした。

祖父の亀作の後について行って、貉穴の近くにトラバサミを仕掛けるのを見守っていたのは遠い昔の夢だったんでしょうね・・・。